

## 編集者のことば

本号は、本研究所のプロジェクト研究である「都市における土地政策と土地利用制度に関する国際的な共同研究」の一環として行われた研究成果としてまとめられた論文6篇を中心に特集号を組み、併せてこれに関する三つの講演記録ならびに公開講演会記録により編集した。

まず、福岡峻治及び玉川英則両研究員の論文は、この共同研究の一環として、それぞれ土地取引・利用規制、及び東京都内における土地取引の特性について分析を試みたものである。また、柴田徳衛・沼田明「東京の土地政策」は、東京都の土地白書を素材に東京の土地政策とその展開をあとづけたものである。さらに、倉橋透・西岡敏郎及び羽貝正美の各論文は、上記共同研究の一環として、いずれも1994年度から1995年度にかけて行われた研究報告をもとに執筆していただいたものである。

第二は、講演記録である。三つの講演記録はいずれもが本特集号と関連の深いテーマをとりあげていることからここに収録することとしたものである。一つは、上記共同研究の一環として1995年12月に催したC.N.R.S.指導教授（当時 東京大学社会科学研究所客員教授）のヴァンサン・ルナルによる「日本の土地問題と不動産の循環」と題する講演記録である。もう一つは、同じく共同研究の一環として1993年12月に催されたロンドン大学経済学部長クリスチヌ・ホワイトヘッド博士の「アフォーダブルハウジングの供給策」と題する講演記録である。この講演に関しては、博士の招聘に当たられた兼任研究員の島田良一教授のご好意により解説を付してある。三つ目は、石田頼房名誉教授の「2019年への都市計画史」と題する1995年3月に催された最終講義の記録である。

最後に、第8回公開講演会「都市の安全性への一視点：犯罪を中心として」の講演記録を収録した。この講演会は、都市研究所が都市研究の成果を都民に公開する目的で1988年度から毎年開催しているもので、今年度は都市の安全性をテーマに講演会を開催した。

1996年3月

福岡峻治